



東小だより

横浜市立東山田小学校

学校だより6月号

令和2年6月1日発行

TEL (594) 4851

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/higashiyamata/>

だれもが安心して豊かに過ごせる東山田小



校長 宇都宮 桂

4月7日以来、54日ぶりに学校が再開しました。児童のみなさん、本当に長い時間お待たせしました。5月25日(月)～26日(火)の健康観察では、「やっと学校に行ける!」「みんなと会えるのが楽しみ!」「いっしょに勉強したい!遊びたい!!」といった声が、数多く挙げられていました。

「学校に行くこと」「みんなと勉強すること」「友だちと過ごすこと」など、当たり前の毎日が、実はとても大切なかけがえのない日々だったと感じた子どもが多くいたと思います。再開後「あれもしたい」「これもしたい」と思いや願いを膨らませている子がいると思います。また、感染症への不安、友だちづくりの心配、学習への危惧を抱く子もいると思います。そこで、子どもたちの心身の状態をしっかり見守り、いつでも子どもたちの声を聞いたり、思いを受け止めたりして、子どもたちに声を掛け、居場所や所属感を感じられるような学級づくりを進めていきます。だれもが安心して豊かな学校生活が送れるように努めていきます。

6月1日～12日までは分散登校なので、2～6年生はクラスの子どもの人数がおよそ半数になります。教師が子どもたちに声を掛けたり、話を聞いたりするチャンスが多くなります。15日～30日までは、全学級午前授業なので、クラス全員の子どもたちと短時間で集中しながら係や当番などクラスの目標や役割を決めていくことができます。一日一日を、一時間一時間を、大切に有効に使って、学校生活を進めていきたいと考えます。

さて、新型コロナウイルス感染症の話題が上がったときに、左下の絵をご覧になった方がいらっしゃると思います。これはアマビエという妖怪です。江戸時代に1枚の「摺物(すりもの)」=「かわら版」だけに登場した珍種の妖怪だそうです。その摺物には、肥後(熊本県)の海に毎夜光るモノが現れ「私は海中に住むアマビエと申すもの。今年から6年間は諸国で豊作が続くが、病も流行する。早々に私の姿を写して人々に見せよ」と言って海中に消えたと書かれていたそうです。また、最初の出現から約10年後のコレラ流行時には、コレラ除けの摺物として「猿に似たる三本足の怪獣」の絵姿が、さらに20年以上を経た明治15年(1882)には、「三本足の猿の像」が「コレラ病除けの守り」として販売されたと記録されており、疫病が流行するときに、妖怪等の登場が自然と社会現象となっていたようです。

疫病が流行ったら、アマビエの絵を描いて、人に見せ鎮静させるということで、今回の新型コロナウイルス感染拡大を受け、厚生労働省はアマビエをモチーフにした啓発アイコンを作成したり、インターネット上にイラストが投稿されたり、お守りやマスクも販売されたりしたそうです。



コロナに負けるなという自粛生活の中、STAY HOMEで外出規制もあり、人との繋がりが少なくなっていました。そんな中、同じ思いをもって、同じもの=アマビエを見たり、描いたりすることで人との繋がりを感しました。そして、人との繋がりに安心を感じ、気持ちにゆとりが生まれると考えます。アマビエが人と人をつなぐ架け橋になっているようだと思います。次は、学校で、子どもと教師が、子どもと子どもが繋がり、だれもが安心して豊かに過ごせる学校・学級になるようにしたいと考えます。夏休みを迎える7月31日まで、学校は全力で頑張ります。保護者、地域の皆様の温かいご支援・ご理解・ご協力をどうぞお願いいたします。